



だより



R8.6.2 Vol.9

ティッシュある？

朝、校長室にいますと、1年生の女の子が「校長先生、ティッシュある？」と廊下から話しかけてきました。鼻血でも出たのかなと「何枚いる？」と急いで廊下に出てみると、もう一人、女の子がいて、「虫やっつけたけん。」と下を指しました。見るとでっかい蚊を見事！成敗していました。

「あ！蚊かあ。」とティッシュを一枚手渡しました。どうやら係の仕事で靴箱調べをしていたようです。手に持っていたボードには、名簿が貼付されていて、そこにチェックをしているようでした。係活動や当番活動を通して集団の中での役割を学んでいるんですね。そう考えると、学校は将来、社会に出て生きていくための基礎作りを行う場であると改めて思います。「ちゃんと係活動できてえらいねえ。」と声をかけると「うん」と言いながら「校長先生、はい！」と蚊をつまんだティッシュの塊を私に手渡し、去って行きました。これからもちよっとずつ学んでいこうね。笑

♪シャボン玉飛んだ♪

先日、星組の子供たちがプレイゾーンでシャボン玉を飛ばして楽しんでいました。ストローで吹くのではなく、たくさん穴の開いた棒をシャボン玉液に浸して軽く振るとたくさんのシャボン玉ができ、飛んで行っていました。今は、いいグッズがあるんですね。シャボン玉といえば、『シャボン玉とんだ 屋根までとんだ 屋根まで飛んで壊れて消えた』この童謡を思い出される方も多いのではないのでしょうか？この歌の作詞をされた野口雨情さんは娘さんを幼くして亡くされています。この歌にどこか切なさを感じるのは亡くなった子供への思いが込められているからかもしれません。

松蔭っ子みんな元気に育ってほしいと飛んでいくシャボン玉を見ながら願ったひとときでした。

♪か〜ぜ 風 吹くな〜 シャボン玉 とばそ♪

四方山話松蔭 ver. 其の九(とりあえず…)

其の六で紹介したエッセイの著者、朝井リョウさんがある日の新聞記事にこんなことを書いていました。『**国語が全教科の土台になる。人間関係のトラブルも言葉を持っていると身を守れる**』今の子供たち、一もう何年も前からですが一ほとんどの感情を「ヤバ〜」「エグ〜」で済ませていませんか？テレビやSNSでもあふれていますよね。(見ていてうんざりしてきます。)だからこそ、日本語の豊かさや美しさをしっかり学ばせたいです。そして、こんなことも言っています。『好きで心をつかまれる対象があれば、何らかの形で自分を助けるから続けてほしい。ないなら安全策で**とりあえず**勉強して学歴社会をずるく利用してほしい。将来何をやりたくなってもいいように。』この“**とりあえず**”という感覚、すごくわかります。話題がないとこの便りは書けません。「とりあえず、本でも読んでみようか！」とたまたま手に取ったのが朝井リョウさんの本でした。そして数日後、この新聞記事に出会いました。もし“とりあえず”読んでいなければ、この記事も私の中を素通りしていたでしょう。こうして話題の一つになりましたし、著者の考えの一端にも触れることができました。勉強が好きでたまらない子はそのまま爆走してもらっちゃっていいんですが、気が進まない子、苦手な子のほうが多いかと…。だからこそ「とりあえずやっどく」この感覚を大事にしてほしいと思います。とりあえずやっどくれば将来へのどこかの道につながる。それは豊かな人生にもつながるってことじゃないかと思うんですよね。それにやっていること全てに意味を求めると人間ってしんどくなると思うんです。校長になってから子供たちと話すとき、『できる、できないじゃないよ。やるか、やらないかだよ』そんな思いをこめて「まあ、とりあえずやってみ！」私はそう言っています。

『なぜ？』を追求することも大切な学びですが、「とりあえずやっどこ！」この姿勢もいつか必ず何かにつながる大切な学びだと感じています。

----- 切り取り線 -----

便りの感想や学校への要望等ありましたら、お聞かせください。今後の学校経営・運営に役立てていきたいと思っています。